

学内広報

for communication across the UT



特集：

駒場コミュニケーション・プラザ完成！

2006.11.8

No. 1346

10月1日、駒場コミュニケーション・プラザ（KCP）が全館開館しました。生協購買部・書籍部と、音楽実習室・多目的教室・舞台芸術実習室・身体運動実習室などからなる北館は、本年4月に開館しましたが、このたび、食堂・交流ラウンジからなる南館、集会・親睦会・合宿や華道・茶道などに利用できる和室6部屋からなる和館も開館し、これで駒場コミュニケーション・プラザの全設備が利用できるようになりました。



KCPは、駒場で勉学にいそしむ学生と、駒場を職場とする教職員の活動を支える場として、旧駒場寮を取り壊した跡地に設けられました。設計・建設と維持管理・運営については、特別目的会社「駒場コミュニケーション・プラザPFI株式会社」に発注・委託するPFI方式がとられています。

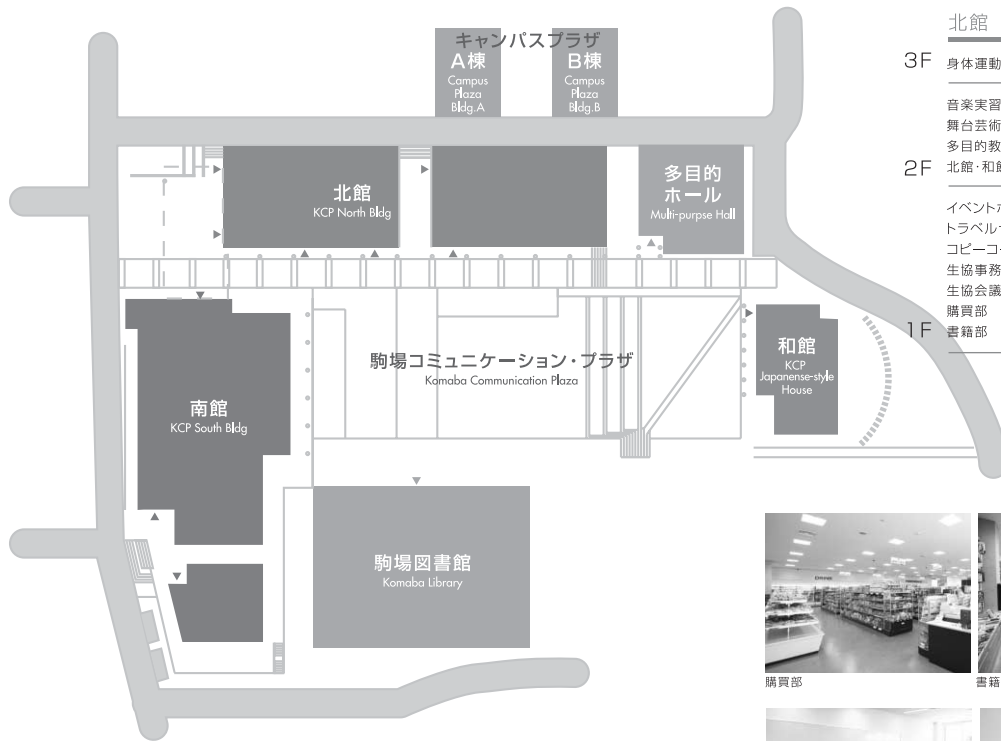
開館に伴い、10月25日15時から、竣工披露記念式典が開催されました。式典では、木畑洋一総合文化研究科長・教養学部長および小宮山宏総長の挨拶に続き、文部科学省高等教育局長清水潔様のご祝辞、廃寮時から実務にあられた永野三郎名誉教授（現埼玉工業大学学長）のご祝辞を賜りました。小宮山総長は、中庭の芝生に学生が寝転んでいる様子をご覧になり、「このような空間が欲しかった。今度は教員があの中に加わっているのを見たい」との感想を述べられました。清水局長からは、「いまの学生がうらやましい」との声があがり、永野名誉教授からは、「廃寮の際には、学生・職員のための福利厚生施設ができるといってもその保証はないではないか、という指摘があったが、実際にはこんなに立派なものが建った。指摘して下さった方々にもKCPの開館を一緒に喜んでほしいと思う」とのお話がありました。

次いで、長坂潤一施設部長から「工事概要報告」が述べられ、その後、施工を担当した鹿島建設株式会社、設計を担当した株式会社類設計室に感謝状が贈呈されました。

式典後、北館2階の音楽実習室において、スタインウェイグランドピアノのお披露目があり、総合文化研究科のヘルマン・ゴチェフスキー助教授が、ベートーベンの『プロメテウスの創造物』の主題による15の変奏曲とフーガ（変ホ長調（エロイカ変奏曲）作品35より、テーマ・ラルゴ・フーガを演奏されました。このピアノを用いた今後の企画にも期待が寄せられています。

式典参加者は、その後、KCP各館の内部を見学されましたが、和館をご覧になった方々からは、「総長室もここに引っ越したい」との声もあがりました。

KCPの完成により、かつて学生の生活を支えた寮や寮食堂があった空間に、再び若い歓声が帰ってきました。駒場キャンパスの東側のこの場所には、KCP開館以来、夜遅くまで人通りが絶えることがありません。今後も、華やかで開かれた駒場らしい空間として、機能し発展していくことでしょう。



	北館	南館	和館
3F	身体運動実習室 1-3	交流ラウンジ	
	音楽実習室 舞台芸術実習室 多目的教室 1-4	Dining 銀杏 コピーコーナー 自動販売機コーナー	
2F	北館・和館事務室	Cafeteria 若葉 イタリアン・トマト カフェジュニア 自動販売機コーナー	和室 1-6
	イベントホール トラベルセンター コピーコーナー 生協事務室 生協会議室		
1F	購買部 書籍部		



●北館



- 1階には生協の購買部と書籍部が設置されています。
- 舞台芸術実習室（2階）は、伝統芸能、演劇、ダンス、パフォーマンスなどの舞台芸術についてのワークショップやレクチャー・デモンストレーションの実習授業および課外活動に利用できます。
- 音楽実習室（2階）は、楽器を用いた実習授業および課外活動に利用できます。
- 多目的教室は、インターネットや視聴覚教材等を活用した講義・デモンストレーション、学生を主体とした授業や国際シンポジウムに利用できます。
- 身体運動実習室（3階）は3室あります。畳敷きの1室は柔道や合気道のみならず、日本舞踊など日本伝統文化の実習にも利用できます。他の2室は剣道などの身体運動実習やトレーニングを中心とした身体運動実習、身体運動に関連した講義に利用できます。
- 身体運動実習準備室は、専門機器類を利用した実習に利用できます。
- 上記の各実習室・教室は学生の自主的実習にも利用できます。

●南館



- 1階には、メインダイニングのCafeteria若葉（550席）、外部から使いやすくテイクアウトも可能なカフェ形式のイタリアン・トマト カフェジュニア（127席）が設置されています。
- 2階には、Dining銀杏（500席）が設置されています。昼食時間後は学生の交流空間として、また、パーティ会場として活用することができます。
- 3階には、交流ラウンジが設置されています。教職員を対象に、小グループの会合、屋上庭園を利用したガーデンパーティなど、下階の利用から独立した空間として対応できるようになっています。

●和館



- 16畳の和室が6室あります。少人数の集会、華道・茶道の会、親睦会や合宿などに利用できます。
- 和室1～4を繋げて64畳の部屋として利用できます。また、和室5～6を繋げて32畳の部屋として利用できます。

問い合わせ先
 北館・和館事務室 受付
 メールアドレス：komaba@com-pla.com
 コミプラ.com：http://com-pla.com
 電話：03-5465-8847（内線 48847）
 F A X：03-3469-9054

NEWS

一般ニュース



学生部

学寮・国際学生宿舎で消防訓練を実施

秋晴れの10月14日（土）に学生部所管の学寮・国際学生宿舎において、消防訓練を実施した。

まず、10時から白金学寮において、高輪消防署員の指導のもとキッチンからの出火を想定した避難訓練、消火器の取扱い説明、訓練用消火器による消火訓練、実際に火災を目撃した場合の通報訓練、自動火災報知設備及び屋内消火栓の操作説明、心肺蘇生の救急救命講習、地震発生時の注意事項等の説明を受けた。

訓練ということもあり、最初の避難訓練時はいささか戸惑う寮生の姿も見受けられたが、実際に東京消防庁に119番通報を行うなど、高輪消防署員の熱心な指導を受けるにつれ、参加者の熱心さも高まっていった。また、てんぷら油による火災の場合の消火方法を教示いただくなど、実生活に有効な実り多い訓練となった。

参加者は20名と少なめであったが、訓練後には、フロア毎の防火担当者を定め、参加できなかった寮生に訓練内容の周知をはかるなど、寮委員会として、消防計画に基づく防火防災体制の整備を進めることに役立てることができた。



白金学寮：消火訓練に取り組む寮生

続いて、13時30分から、豊島学寮及び豊島国際学生宿舎において消防訓練を実施した。

訓練内容は白金学寮と同様の総合訓練となった。

豊島消防署巣鴨出張所側の都合により、あいにく消防署の指導は受けられなかったものの、防火管理者である生活支援課長を筆頭に、生活支援課職員により各種訓練を行った。

救急救命講習では、急遽、宿舎生の医学部医学科・小野浩治さんにより心肺蘇生法の講習を受けた。

参加者は36名と少なめであったが、皆、真剣に訓練に取り組み、防火防災体制の重要性を認識する一時であった。



豊島国際学生宿舎：医学部小野浩治さんによる救急救命講習

なお、訓練終了後、18時から豊島国際学生宿舎において、日頃からお世話になっている近隣の方々もお招きし、豊島国際学生宿舎、豊島学寮合同で「寮祭」を開催した。

この寮祭は、宿舎生、寮生及び近隣の方々とコミュニケーションを図ることを目的として開催したものである。料理はほとんどが手作りで、4mの竹2本を用いた季節外れの流しそうめんには子供たちが群がっていた。

また、和室では宿舎生の國枝明弘さん（第3回全日本学生落語選手権策伝大賞大会優勝：平成18年度東京大学総長賞受賞）による落語が披露されるなど、盛りだくさんのイベントとなった。



豊島国際学生宿舎中庭で行われた流しそうめん

消防訓練後の寮祭ということもあって、いささか疲れが見える寮生も見受けられたが、参加者にとっては、防火防災に加えて食品衛生管理にも気を配るなど、日頃味わえない有意義な一時を過ごすことができた。



國枝明弘さんが落語を披露

学生部
谷川寮閉寮式典挙行される
一般

学生部では、10月14日（土）、群馬県水上町において東京大学谷川寮閉寮式典を挙行了。これは、昭和6年の開寮以来70余年の長きに渡って愛されてきた谷川寮が、建物の老朽化などのため平成17年度をもって閉寮したことに伴い、これまで寮の運営にご尽力頂いた本学OB・地元谷川地区の方々に感謝の意を表するとともに、谷川寮の長い歴史を偲ぶ目的で行なわれたものである。



看板を取り外す古田理事・副学長、河野運動会理事長

まず古田元夫理事・副学長より、閉寮という苦渋の決断に到った経緯の説明とともに、学生・教職員の福利厚生施設としての保健体育寮の存在は大変重要であるとして、今後の発展への期待が述べられた。続いて河野運動会理事長、木下運動会常務理事が、谷川寮の歴史の概略を説明した後、このたびの閉寮は建物の老朽化と利用者の減少のためであるが、土地は運動会が堅持し、新しいニーズに対応した保健体育寮を建てるために捲土重来を期す旨、OB・谷川地区の方々に深く感謝するとともに今後もご支援を願いたい旨を述べた。



古田理事・副学長

懇談の時間では、まず本学OBである瀬田克孝・遠藤郁夫の両氏が、昭和26年の建物の焼失・再建に係る苦労話など、谷川寮の歴史と思い出を語った。瀬田氏は寮の運営にあたって大変お世話になっていた谷川地区に「本学ならではの地域貢献」をしようと提言し、当時無医村であった地元に毎年自ら足を運び、定期健康診断を行なうこととした。これが通称「谷川診療」の始まりであり、昭和34年から平成16年までの45年間、本学の地域貢献を通じ地元住民との交流を培う意義深い取り組みが続いていくこととなった。



瀬田克孝氏

谷川地区からは、間部谷川区長を始めとする住民の方々と、四世代に渡って谷川寮の管理人を勤められた石井家を代表して前管理人の石井和栄氏が、閉寮を惜しみつつ長い間多くの学生と交流してきた喜びを語った。

最後に、第4代応援部主将である樋口利雄氏が、往時と変わらぬ力強いエールを切り、本学与谷川地区の益々の発展を一同祈念して、会はお開きとなった。



一同による記念写真

研究協力部
「東京大学稷門賞」授賞式を举行
一般

平成18年度前期「東京大学稷門賞」の受賞者が下記のとおり、東京大学総合研究博物館ボランティアの会様、新日本製鐵株式会社様他4社、武田薬品工業株式会社様他1社及び佐川急便株式会社様他22社の4件31団体に決定し、10月24日（火）17時から山上会館大会議室において授賞式が举行された。本表彰は、私財の寄付、ボランティア活動及び援助等により、本学の活動の発展に大きく貢献した個人、法人又は団体（現に在籍する本学の教職員及び学生は原則として対象外）に対し授与するものであり、前期、後期の年2回行っている。授賞式においては、選考結果の報告、各受賞代表者への表彰状及び記念品の贈呈があり、その後、総長の挨拶、受賞代表者からの挨拶が行われた。また、授賞式に引き続きレセプションが行われ、受賞関係者と本学関係者との懇談が和やかな雰囲気の中で行われた。



授賞式の様子

◎ 受賞者

1 東京大学総合研究博物館ボランティアの会様

授賞理由：総合研究博物館に対し、ボランティア活動として、平成7年以来継続的に、展示の説明・案内や標本の整理等の展示活動を支援し、本学の博物館の運営に貢献

2 新日本製鐵株式会社様、JFEスチール株式会社様、住友金属工業株式会社様、株式会社神戸製鋼所様、日新製鋼株式会社様

授賞理由：工学系研究科に、寄付講座（「相関製鉄システム学寄付講座（平成4～9年度）」、「製鉄環境システム工学寄付講座（平成9～14年度）」、「環境システム工学寄付講座（平成14～19年度）」）を設置し、マテリアル工学の研究・教育に貢献

3 武田薬品工業株式会社様、株式会社コーセー様

授賞理由：薬学系研究科の総合研究棟（第二次工事）の建設にあたり、建設費を支援し、同研究科の教育・研究の一層の充実に貢献

4 佐川急便株式会社様、田辺製薬株式会社様、株式会社メディネット様、株式会社NTTデータ様、テルモ株式会社様、武田薬品工業株式会社様、アンジェスMG株式会社様、株式会社サトウスポーツプラザ様、株式会社日立製作所様、株式会社日立メディコ様、中外製薬株式会社様、ニッセイ情報テクノロジー株式会社様、株式会社ハイメディック様、GE横河メディカルシステム株式会社様、エア・ウォーター株式会社様、エーザイ株式会社様、クインタイルズ・トランスナショナル・ジャパン株式会社様、三井物産株式会社様、東京海上日動火災保険株式会社様、三共株式会社様、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社様、株式会社コカ・コーラ東京研究開発センター様、富士フイルム株式会社様

授賞理由：附属病院の「22世紀医療センター」の設置に賛同し、必要な建物の建設費及び研究経費を助成し、本センターが本学における産学連携の一大拠点となり、基礎研究の成果の実用化に向けて展開するために貢献

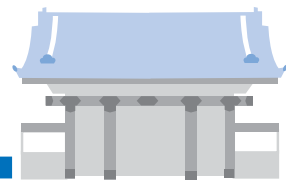


受賞代表者の皆様



受賞者に贈られた表彰状及び記念品

部局 ニュース



分子細胞生物学研究所

博士課程在籍者懇談会・修士課程在籍者懇談会を開催

分子細胞生物学研究所では、9月21日（木）に博士課程在籍者懇談会が、また、10月19日（木）には修士課程在籍者懇談会が、農学部生協食堂において開催された。これらの懇談会は、分生研に在籍する学生同士の交流を促進するための試みとして、今回初めて企画されたものである。

分生研では現在、農学、理学、薬学、医学、工学、新領域の研究科から約190名の大学院生を受け入れ、本学の生命科学研究における異分野間の融合拠点として大学院教育に貢献している。しかしながら現在、研究室が本館、総合研究棟、生命科学総合研究棟の3つの研究棟に分散しているため、学生同士の日頃の交流は活発とはいえない。そこで、学生による企画進行で今回の懇談会を行った。両日で総勢160名の学生、教職員が、一日の研究・仕事を終えて参加した。初対面同士が交流できるよう、学生、教職員共に抽選により席を決めた。宮島所長の挨拶と乾杯に始まり、和やかな歓談となった。途中、学生から先生方へ質問をする企画では、普段はできないような学生からの質問とそれに対する先生方の赤裸々な回答に会場は大いに盛り上がった。



博士課程在籍者懇談会の様子

参加した学生からは「様々な研究をしている人たちが所内にいることを知り、研究をしていくうえでの刺激になりました」などの声があった。今後もこのような親睦の場を設けていきたい。

10月8日（日）、三鷹国際学生宿舎において、10月から新たに入居した留学生の歓迎会が、院生会（留学生の宿舎生活を支援する大学院学生によるチューター組織）の主催により行われた。当日は新入留学生約50名をはじめ、大学院学生や有志の学部学生、すでに入居している留学生などを含め、延べ90名程度が参加し、盛大な会となった。

参加者の国籍や学年は様々であるが、飲み物を片手に、英語や日本語、母国語で会話を楽しんでいた。院生会メンバーと有志の留学生で作ったおでんやうどんといった日本食メニューは留学生に大変好評で、鍋がすぐに空になってしまうほどであった。会の中盤には、フィリピンからの新入AIKOM生のメリッサさんが、チューターメンバーの即興の伴奏に合わせてタガログ語のラブソングを歌い、参加者がその美声に聞き入っていた。また、今年初めての試みとして、宿舎内の倉庫に保管されていた不要な家電や家具を会場の隅に並べ、受け取り希望者を募ったところ、希望者が大変多く盛況であった。歓迎会后、知り合った仲間たちと個々に楽しむ留学生の姿が見られ、歓迎会を通して交流の場が広がられたことが感じられた。

三鷹国際学生宿舎では約600人の学生が生活しており、そのうち約3割を留学生が占めている。居住する大学院学生約25名で組織される院生会と、国際交流に興味を持つ学部学生により、留学生向けの生活ガイダンス、各種イベント等が企画・実行されており、活発な国際交流の場になっている。



メリッサさんの歌に聞き入る参加者



留学生同士の交流の1コマ



新入AIKOM生のメリッサさん（左）による歌の披露



留学生と日本人学生との交流の1コマ

医科学研究所

慰霊祭行われる

部局

医科学研究所では、同附属病院で亡くなられ、病理解剖させていただいた方々の御霊をお慰めするために、10月12日（木）13時30分から医科学研究所慰霊祭を挙げた。式は、参列者全員による黙祷に始まり、献体者御尊名の奉読の後、山本所長が「御霊に捧げることば」を述べた。続いて、御遺族及び医科学研究所教職員が献花を行い、最後に、山下病院長から御遺族に対して感謝のことばがあり、14時過ぎに滞りなく終了した。



「御霊に捧げることば」を述べる山本所長



遺族に感謝の挨拶を述べる山下病院長

大学院工学系研究科・工学部

「第二回工学体験ラボ」を開催！ ～工学部広報センター「T-Lounge」新設

部局

10月21日（土）、工学部広報センター（T-Lounge）にて、第二回工学体験ラボ（T-Lab）を開催した。高校生を対象に「航空宇宙工学～ここから始まる空と宇宙の最先端」と題して、セミナーと実験を行った。

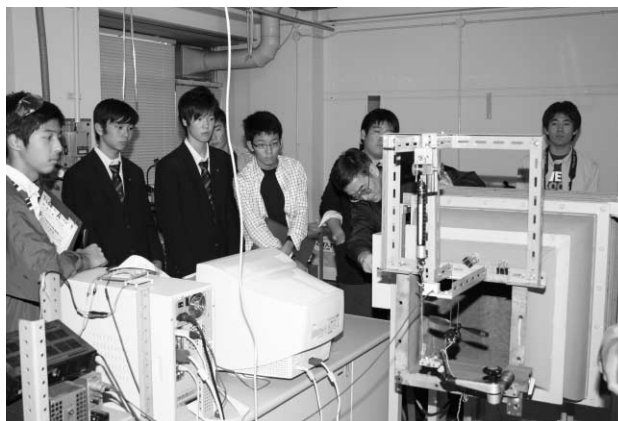
飛行機、衛星、ロケットの三つの切り口で、研究の最前線を研究者本人が紹介するセミナーでは、工学部航空宇宙工学科の鈴木真二教授、中須賀真一教授、小紫公也

助教授が講師を務めた。その後、工学部7号館の実験室へ移動し実験を行った。高校生にとっては初めて目にする実験機器であり、「実際に目の前で実験を見ることが出来て良かった」「初めて見る機械に驚いた」「有意義な時間を過ごせて面白かった」など、実際に研究者の話聞き、実験を体験できたことで大変好評を得た。

なお、工学体験ラボの会場となる「工学部広報センター（T-Lounge）」は、工学部でどのような研究がなされているのかを、多くの人に伝えるための空間として7月に新設された。様々な研究を紹介する展示や大画面モニターに映し出した映像コンテンツ、工学部関連書籍などの工学部アイテムに囲まれた空間に、テーブル・イスを設置しラウンジ機能も持たせた。コーヒーを片手にゆったりとした気持ちで工学を眺めてもらうことで、日常生活になくはない工学を自然に受け入れ、親しみを感じやすい空間を目指している。研究者と高校生や一般の方々をつなぐ新しい試みであるT-Lounge、工学体験ラボに、今後も期待して欲しい。



小紫助教授によるレクチャーの様子



工学部7号館での実験の様子（渦の不思議とプロペラの実験）

10月23日午後、中野区にある教育学部附属中等教育学校において、教育実習生B班のまよめの会が開かれた。これは教育実習を行った東京大学の学生を対象に毎年行われているもので、9月に教育実習を行った学生と、6月に実習を行ったがA班まよめの会に出席できなかった学生が出席した。今年度はA班と合わせると94名の学生が教育実習を行い、附属中等教育学校のまよめの会に参加している。それぞれの学生が、4月のオリエンテーションで集まった時とはどこか違った面持ちで来校していたように思う。実習した学校は全国さまざまで、中学校で教えた人も高校で実習して来た人もいる。しかしながらどの学生も授業を受け持ち、教員や生徒と関わりながら、2週間あるいは3週間の教育実習を経験してきたことは確かである。

まよめの会に出席した学生たちは、国語、社会、数学、理科、英語、保健体育の各教科に分かれ、担当教員を中心に実習で得た経験、感想などを元にディスカッションなどを行った。その後、教育実習記録簿に最後のまよめを書いて教員に提出した。まよめの会終了後、校内のあちこちで、附属で実習をした学生たちが、数ヶ月前に教えた中高生と懐かしそうに語り合う姿が見られた。

9月に3週間、東大附属の英語科で実習をした経済学研究科の田中智晃さんは、「実習期間は、生徒と楽しんで学校祭に取り組みました。私は教える技術を学んだことよりも、人間として成長できたことが大きいと思います」と語り「いつかまた中学で教える機会を持ちたい」と話していた。

10月28日（土）教育学部附属中等教育学校において、第2回三者協議会が開催された。「携帯電話とインターネットの利用」について話し合いが行われた。生徒22名、保護者25名、教職員20名と一橋大学の中田康彦助教授とゼミ学生、中野区役所子ども育成分野活動支援担当の清野隆司さん、首都大学東京の学生で中野区ハイティーン会議コーディネーターの斉藤大さんが参加した。



生徒・保護者・教職員、三者による協議の様子

まず「生徒アンケートの報告」が、5年生の徳島更紗さんからなされた。回答者656人の中、携帯電話をもっている人は565人で86%が所持していることが分かった。

つぎに、課題別学習でのレポート「10代がメールを使う心理」について、5年生川口ひとみさんが報告した。メールでのコミュニケーション能力が重要視されていることが伝えられた。その後は質疑応答、意見交換が活発に行われた。

生徒からは「携帯電話をもっていないことで、仲間の話題についていけない」という人間関係の心配が告げられた。しかし携帯依存になり、メールが届いていないか不安になりすぎるという弊害も指摘された。

また、「試験期間中で夜になってわからない箇所が出てきたときに、メールで質問できるのはありがたい」という生徒の意見もあった。これに対して草川剛人副校長は「しかし夜遅いメールは他者のことを顧みないのでないか」といった他者をどうみるかの観点を指摘した。受け手のことも考えたマナーが必要であるとの意見も教職員から挙げられた。

食事中には携帯電話を使わない、と決めている家庭もあった。携帯を使うことで、時間が奪われてしまうことも保護者から述べられ、頷く生徒が多かった。

参加者からのコメントで、一橋大学の中田康彦氏は、東大附属の生徒はヘビーユーザーではないと述べられた。また、携帯の有効利用のやりくりについて何ができるか、今日参加していない生徒たちにも持ち帰って話し合いの機会をもってはどうかと提案された。

おわりに、三橋俊夫副校長は、「HRで携帯電話についての話し合いをもつべきである」と意見を述べた。

小貫 元治
サステナビリティ学
連携研究機構 特任講師

サステナビリティは、世代間の公平性や南北格差、人々の生活の質や安全保障、生態系や地球環境システムなど、複合的な課題を含む概念です。このような概念を理解し、サステナブルな社会の構築のために活躍できる知識・能力・熱意を備えた次世代のリーダーを育成するためには、知識伝授型の教育だけでは不十分です。問題の複雑さ、解決の困難さを肌で認識し、その上で解決へ向けて知恵を絞ることを、実体験として身につけてもらうための教育手法が必要です。

Intensive Program on Sustainability (IPoS)は、このような教育手法の開発を目指して、2004年に東京大学とアジア工科大学院の共催により開始された実験的教育プログラムです。性別、国籍、学問的バックグラウンド、文化・宗教的バックグラウンドの異なる学生(25-30名程度)が、演習、見学、ディスカッションを重視した約2週間にわたる合宿形式のプログラムを通して、サステナビリティに含まれる課題とその複雑さを学びます。多様な学生によるグループディスカッションは、時として現実に存在する利害対立の縮図の様相を呈し、参加者は問題の複雑さ、解決の困難さを、身をもって体験することとなります。また、すでに専門分野が決まった学部後期課程もしくは大学院修士課程レベルの学生を対象とし、議論の題材もアジアで現実に存在している問題を取り上げるため、参加者は各自の専門分野からサステナビリティに対して何がいえるのか、何が出来るのか、また何をしなければならないかを、自らが社会へ出たときの問題として考えることとなります。

まだまだ発展途上のプログラムですが、3代にわたる卒業生は、お互いのネットワークを維持しつつ世界へ羽ばたきつつあり、彼らの活躍を期待しつつ、大学におけるサステナビリティ教育の方向性を示す取り組みとして、さらなる改善を続けていく予定です。

IR3Sもその発足後は、IPoSを支援しています。同時に、IPoSにおいて蓄積したサステナビリティ教育のノウハウは、IR3Sが準備中のサステナビリティ学修士課程教育プログラムにも活かされる予定です。

※本プログラムの雛形は、人間地球圏の存続を求める大学間国際学術協力(AGS)の教育活動の一環として始まった、Youth Encounter on Sustainability (YES)である。IPoSはYESのアジア版として構想された。2004年から2006年にわたってタイ開催。2007年は日本開催予定。



UT購買サイトにまつわる話題のひとつに「Mac」問題があります。コスト面を考慮して汎用的な商用システムをベースとしたため、大学及び研究機関以外ではあまり使われていないアップル社製のパソコン、Macからシステムを利用できないという問題です。この問題は、昨年秋にコーポレート・カードを導入したときからのものでもあり、総務部情報課を中心に対処策が検討されてきました。

Mac 対応策として最初に考えられたのは、エミュレータの利用でした。エミュレータは高価だといわれる中、廉価なものもあるという情報をもとに検討を進めたのですが、結局は費用対効果の点で納得のいく結論に達せず、断念せざるを得ませんでした。

次いで、Mac 自体に互換性を持たせられないかという観点から検討が行われました。特に本年1月にアップル社から Windowsに使われている Intelチップを内蔵した機種を発売することが発表され、対応策として有力と思われました。しかし、実際の発売予定時期がはっきりしなかったことと、もし発売されたとしても最新機種以外に対応できないままということで、別途に対策が必要というところに戻ってしまいました。

さて、こうなると一定数の Windowsのパソコンを配付して、Mac の利用者には「申し訳ないけどこれを使って下さい」と言うしかなくなってきてしまいます。しかし、利用者が利便性の面からどうみるか、また Windowsのパソコンが何台くらい必要となるのかというコスト面、さらに配付パソコンのセキュリティ対策といった問題から、これもなかなか踏み切れませんでした。

以上のような試行錯誤の繰り返しの末、情報課から「リモートデスクトップ」の利用という提案が出されました。これは、Mac に Windowsへ接続するソフトをインストールし、別途に用意される Windowsサーバを経由することによってシステム利用を可能にするというものです。コストが数百万円台との見通しが得られたこともメリットと考えられます。UT購買サイトを含め各教職員のパソコン活用を前提とした事務処理が進められる中、Mac の使用台数が多い東大にとってひとつのエポックとなりそうです。今のところ、年明け以降準備出来次第、といった導入予定です。なお、現在計画が進められている試薬のウェブ発注システム(仮称「UT試薬サイト」)は、さいわいなことに当初から Macでの利用が可能となっています。



キャラバン型産学連携セミナー:海洋研究所

海洋研教職員・学生が多数参加

10月18日、海洋研究所で、東京大学産学連携本部によるキャラバン型（出張方式）の産学連携セミナーが開催されました。

当日は、寺崎所長（写真上）、徳山教授（知的財産室室長）をはじめ、海洋研の教職員・学生が多数参加しました（写真下）。



産学連携本部からは、藤田本部長、太田産学連携研究推進部長、小蒲知的財産部長、各務事業化推進部長が講師として出席し、産学連携本部全体並びに各部の活動概要と部局支援の様々なメニューについて説明を行いました。また、産学連携本部との密接な連携パートナーである、株式会社東京大学TLO（CASTI）の山本社長、株式会社東京大学エッジキャピタル（UTEC）の郷治社長も講師として出席し、各社の概要と部局支援の現状について報告を行いました。

全体説明終了後に質疑応答に入り、産学連携活動や発明における学生の関与に係わる留意事項、共同研究の成果取扱とりわけ共同研究先である企業が自己実施で事業化した場合の大学への利益還元のあるあり方、大学発ベンチャー企業の業績の現況など、幅広い領域に議論が及びました。

産学連携セミナーは従来、本郷キャンパスの産学連携プラザに聴講者を集めて講義形式で行うことを定例化して行ってきました。今後は、従来の方式に加えて、産学連携本部教職員とCASTI・UTEC両社のメンバーがチームを組んで、部局に直接訪問する形で行う“キャラバン型”産学連携セミナーを継続して実施してまいります。

産学連携本部は、産学連携に関わる部局支援のための全学組織です。ご要請があれば、キャラバンでお伺いしますので、ご遠慮なくお申し付けください。



多数の教職員・学生が参加した海洋研究所における“キャラバン型”産学連携セミナー（10月18日）

台湾行政院国家科学委員会調査団来訪

東大の産学連携モデルに強い関心

10月17日、台湾の行政院国家科学委員会（同国の科学政策担当機関；団長は、国立台湾大学法学部黄銘傑教授）調査団が産学連携本部を訪れました。当該調査団は、日本における産官学連携並びに大学の知財創造、技術移転に関する調査を行っており、東京大学を日本の産学連携のモデルケースとして、訪問による調査対象に組み入れました。

大学における産学連携の位置づけ、知的財産権の管理、活用の方法とそのため組織体制、技術移転機関（TLO）の役割と大学との関係、産学連携活動あるいは技術移転により得た利益の配分ルール、具体的な技術移転の成功事例等、議論は多岐にわたり活発に行われました。

産学連携本部は、海外からのこうした産学連携に関わる調査には従来通り積極的に対応してまいります。



台湾来訪団を前に歓迎の挨拶をする藤田本部長（10月17日）

お知らせ

◇産学連携セミナー「“Web 2.0”から、ベンチャーを考える」

日時：12月4日（月）18:00-20:00

会場：経済学研究科棟地下1階大教室

申込 <http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/ss/seminar/index.html>

◇発明に関するお問い合わせ先

（連絡先）産学連携本部（研究協力部 産学連携課 知的財産マネジメントチーム）

[sangaku2\(at-mark\)ml.adm.u-tokyo.ac.jp](mailto:sangaku2(at-mark)ml.adm.u-tokyo.ac.jp)

◇常時発表者募集・随時開催

[UCRシーズ実用化提案会][UCRプロジェクト提案会]

[Proprius21\(at-mark\)ducr.u-tokyo.ac.jp](mailto:Proprius21(at-mark)ducr.u-tokyo.ac.jp)

連絡先:産学連携本部（研究協力部 産学連携課）

電話：内線22857（外線03-5841-2857）

ホームページ：<http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/>

※「東京大学トップページ」上で「産学連携本部」をクリック

スキー山岳部

山岳部、と聞いて想像されるのは、重い荷物を背負って集団で山を歩く姿、きつい練習と長期の合宿、そして厳しい上下関係などといったものではないでしょうか。

当部はそういった山岳部の伝統を徹底的に見直し、時代に合った、そして自由な山岳部を目指してきました。その結果合宿は一切廃止し、練習も個人の自由、自分の目標に合わせて各々のトレーニングを考え実践する、という個人主義の形態で活動を行うようになりました。

現在、全ての部員は自分のやりたいと思うことを、組織というものに縛られずに行う事が出来ます。クライミング能力を高めたいと思う者は一年中クライミングに専念し、山に行きたければ自分でパートナーを見つけ行きます。

そうやって自分を鍛えようとする者の集まりですから、お互いの良いところを自分に取り入れ、高めあう事が可能になります。「山」というイメージにとらわれず、より効率的で合理的な練習・活動を意識しているのも当部の特徴です。



主な活動はロッククライミング、山岳スキー、トレイルランニングなどで、よりスポーツ性の高い、先鋭的な山岳活動を行っています。また海外遠征志向も高く、多くの部員は海外での活動経験を持ち、自分なりの成果を出して帰ってきています。



明確な目標を持って、主体的に活動できる人であれば、当部で成果を出す事が出来るものだと思います。

(スキー山岳部 窪田 健太郎)

★★DATA★★

創立：大正12 (1923) 年
 部員数：6名
 練習場所・練習日：各自でメニューを決めている。
 年間予定：活動内容による。長期の休みには国内・海外へ遠征をする部員が多い。
 活動実績：プラナン(タイ)やヨセミテ(アメリカ)へのクライミング遠征、日本山岳耐久レースなどに出場
 部長：鈴木 俊夫(大学院工学系研究科教授)
 監督：関根 匡(当部平成10年卒OB)
 HP：<http://tusac-hp.net/index.shtml>

準硬式野球部

準硬式野球とは準硬式球を用いてプレーする野球のことです。準硬式球は見た目はほぼ軟式球と同じですが、軟式のように中が空洞ではなく、芯が入っています。基本的には硬式球と同じと考えていただければ結構です。

硬式球と比べて、比較的ボールを握りやすく、軟式しかやったことのない人でも慣れるのに苦労することはありません。道具は硬式と同じものを使用し、バットは金属バットを用います。



我々は東京六大学準硬式野球リーグに所属し、年2回、春と秋に、早稲田・慶應・立教・明治・法政とリーグ戦を行っています。他大には、甲子園や地方大会で実績を残した人々が多く在籍しています。スポーツ推薦のない本学は、投打両面で苦戦を強いられていますが、勝ち点を奪うべく日々努力しています。

我が部は東京六大学リーグ戦において、非常に強い相手に対して勝利する目標を持っていると同時に、学業と部活動の両立という大きな目標も持っています。練習は4限終了後の16：20からとなっており、必修の授業と重なることなく練習しています。(準硬式野球部 長岡 篤史)



★★DATA★★

創立：昭和22 (1947) 年
 部員数：30名
 練習場所：駒場野球場
 練習日：月・水・木・金 16：20～
 土・日 13：00～
 年間予定：4月 関東選手権
 4～6月 東京六大学春季リーグ戦、国公立大会
 7月 京大戦
 8月 七大会、合宿
 9～10月 東京六大学秋季リーグ戦
 東京六大学木村杯新人戦
 3月 合宿
 活動実績：春季リーグ戦6位、国公立大会準優勝、
 七大会5位
 部長：廣松 毅(大学院総合文化研究科教授)
 監督：雨宮 渉(当部昭和54年卒OB)
 HP：<http://todayunko.web.fc2.com/>

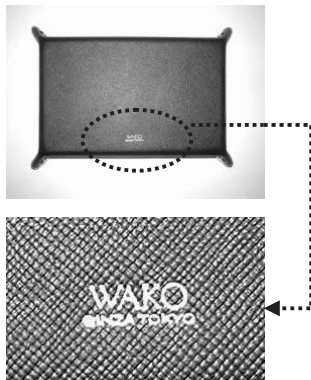
編集：学生部学生課体育チーム (内)22510

■新商品のご紹介

■革製トレイ

銀座に本店を持つ和光さんとのコラボレーション商品です。職人さんがひとつひとつ手作りで丁寧に仕上げました。角の縫い方など、手帳やお財布同様上質な革製品と変わらぬ製法です。長年お使い頂ける商品で、ワンランク上の小物入れとしてご使用いただけます。

特別な方へのプレゼントにいかがでしょうか？



●販売価格：5,880円（税込）

表面にUTロゴ、裏面に「WAKO」が刻印された革製トレイ。シルバーのスナップに刻まれた「WAKO」と白のステッチがアクセントです。

■11月25、26日、駒場祭に出店いたします。



●営業時間
10:00～17:00

●場所
駒場キャンパス
(アドミニストレーション棟と駒場博物館の間付近)

本郷キャンパスから、研究成果を商品化したもの、オリジナル商品（一部）を持って出店いたします。この機会に是非お立ち寄り下さいませ。スタッフ一同心よりお待ちしております。

(担当：コミュニケーションセンター 辻)



東京大学コミュニケーションセンター
The University of Tokyo
Communication Center

The University of Tokyo

OPEN：月曜～土曜 10：30～18：30
電話：03-5841-1039
<http://www.utcc.pr.u-tokyo.ac.jp>

= 特集テーマ&執筆部署募集告知 =

特集記事を執筆してみませんか？

学内広報では巻頭の特集記事のテーマとその執筆部署を募集しています。学内への周知を図るためのツールとして特集記事はとても効果的です。皆さんの部署でもぜひ、記事を執筆してみませんか？

1. 制作方法

① テーマの選定

基本的に、全学の教職員を読者対象とするテーマを選定することになっています。まずは一度、総務部広報課に気軽に御相談ください。学内広報特集に馴染まないテーマでない限り、対応いたします。

② 内容・構成の決定

テーマが決まったら執筆部署と学内広報編集スタッフ（以下、編集スタッフ）が打ち合わせをしてページの内容を決めていきます。基本的に見開き2ページをひとつの単位とし、内容が盛りだくさんの場合は4ページ、6ページで構成することもあります。

③ 原稿の執筆

決定した内容構成に合わせて執筆部署に原稿を書いていただきます。字数等は編集スタッフが提示します。原稿はwordファイルでご制作ください。

④ ビジュアル要素の提供

特集記事に盛り込む写真・図・イラスト等を執筆部署から提供していただきます。手持ちの写真がない場合は編集スタッフが撮影におうかがいします。

⑤ デザイン

お書きいただいた文字原稿、提供していただいた写真・図等を素材にして、編集スタッフがページデザインを作ります。もちろん、執筆部署でデザインを作っていただいてもかまいません。

⑥ 校正

デザインしたページイメージをお送りしますので、主に文字校正を行なっていただきます。

⑦ 完成

刷り上がった学内広報は、執筆部署に多めに配布いたします。

2. 締切日

こちらから期日を申しますので、御協力をお願いいたします。通常の学内広報×切日（第1・第3水曜日）の2日前を原稿締切日とします。

3. 問い合わせ先・原稿提出先

総務部広報課 広報企画チーム
TEL：03-3811-3393 内線22031
E-mail：kouhou@m1.adm.u-tokyo.ac.jp



ワタシのオシゴト

第3回

Rings around the UT

研究協力部国際課研究活動支援チーム
並木 梨恵さん



それぞれの想い

一人一人の興味は千差万別で、ある人にはまったく関心のないものが、誰かにとってはとても大事だったりします。

広報センターに初めてご来館された60歳前後の女性の方でした。樹木がお好きと知り、北海道演習林の記録映画『樹海—第1部：北国の森林／第2部：天然林を育てる』の視聴をお勧めしました。製作が1972（昭和47）年とちょっと古いので、観てくださる方があって良かったとホッとしたのです。しかしお客様は、観終わるや否や満面の笑みで「私、とどまつが大好きなの！」と興奮したようにおっしゃいました。「はっ？」とこちらは困惑気味。

（注：北海道演習林の主な樹種は、えぞまつ・とどまつ等約160種類。広大な映像の中に、とどまつの姿がはっきりと映し出されていたのです。）ご本人いわく、とどまつは北方特有の樹で、本には説明ばかりで写真があまり無い。実物を観たいと願っていたが、まさか映像で観られるとは思ってもみなかった。偶然ここに来たのも不思議だ！と喜ばれました。そしてその後も何度か愛しのとどまつに会いに来館されたのです。いつも嬉しそうなそのお顔が目には浮びます。

80代の女性は、東大病院での受診後には必ずお立ち寄りくださる方で、ご来館歴はもう5年くらいになります。総合研究博物館の展示がお好きでいつも楽しみにしています。ある時、昆虫の話になりました。気になっている芋虫があり、どんな成虫になるのだろうと話されました。幼虫の名は「梨大葉蜂（ナシダイハバチ）」ではインターネットで調べてみましょうかと検索すると、出てきました！たくさん芋虫が！（うっ、苦手だ〜）ハバチの成虫写真もいくつか掲載されていましたが、梨大葉蜂という種類は見つかりませんでした。それでもお客様は大変満足されたのです。尋ねると、その想いを何と50年間も大事に抱えていたというのです。胸のつかえがとれて嬉しいと安堵したかのように語られました。

このお二人のように、想いはいつか叶うのでしょうか？
私は、お客様とのいい出会いがありますようにと願います。
そして、皆さんにとって今日が良い日でありますようにと。
～次回へ続くかもしれない!?～

* 広報センターでは VTR・DVD の視聴ができます。
http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/public02_03_j.html

* 学内の皆様へ：視聴可能なVTR・DVDがありましたら、総務部広報課までご連絡をお願いします。
(kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp 内22031、82032)



国際課に『大型新人』、現る！

こんにちは。研究協力部国際課研究活動支援チームの並木梨恵です。今年の4月から独自採用の第一期生として働き始めて早6ヶ月。やっと自分の所属がスムーズに言えるようになりました。そんな私の仕事は、所属が示しているとおり、先生方の国際的な研究活動を支援することです。でも、メインに取り扱っているのは国内機関の助成金に係る諸手続きなので、「国際課」のイメージとは程遠く、あまり、というか全く英語を使う機会はありませんorz また、新人のピヨピヨなのに国際連携本部の委託費執行の担当を任せられちゃってあります。3ヶ月に渡る研修を終えて本配属となった7月に前任者から仕事の引継ぎをされたときには、予想以上の仕事量に泣きそうになりました。とゆーか、泣きました。

・:(ノ口)\(；D；)モライナキシチャターヨ



でも、東大の国際戦略の最新情報を知ることが出来るので、これからは毎日定時に帰ることが出来なくても、得意な英語を活かす機会がなくても、東大のグローバル化に少しでも貢献できるように頑張りたいと思います！もちろん、遊びにもこれまで以上に全力投球で取り組みますので、皆さん遊んでくださいね。
うふふ、いえ〜い♪♪

出身地：西ドイツDusseldorfにて生誕。幼少時は渋谷の白鳥と呼ばれるセーラー服の学校、中高の青春時代はイギリスで過ごしました～

血液型：◎型

自分の性格：

几帳面で、

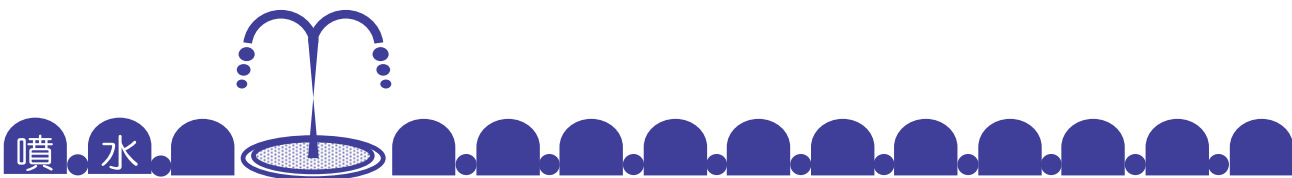
お一ざっぱ



次回執筆のご指名：飯塚寿子さん

関係：フランダースの犬

一言紹介：私の母であり、お姉さまであり、憧れの女性であり、尊敬できる、偉大でキュートな先輩です。



第30回東京大学伊豆・戸田マラソン大会が開催される

恒例の東京大学伊豆・戸田マラソン大会が、10月29日（日）に開催された。コースは、静岡県西伊豆の東京大学戸田寮（沼津市戸田地区）を基点とする42.195 kmで、標高差500mの山道を含むなど通常に比べかなりの難関ではあるが、日本有数の景勝地として知られる西伊豆の自然を体感しつつ走ることができ、参加者から例年好評を博している。

本年度の大会は第30回の節目に当たり、大会前日の28日（土）には、地元の沼津市立戸田中学校を会場に、農学生命科学研究科・日野明徳（ひの・あきのり）教授により近隣住民と大会参加者を対象として「地球の未来を決める海の環境と漁業」と題する記念の講演会が約100名の聴衆を集め開催された。漁業の盛んな土地柄ということもあり、講演に続いて設けられた質疑応答の時間には、多くの地元関係者から熱心に質問が投げかけられていた。



フルマラソンスタート風景

大会当日は、前夜の雨もあがった良好な天候のもと、総勢77名（教職員9名、卒業生等12名を含む）が出走した。結果、個人総合の部では、卒業生の大井寛己（おおい・ひろき）さんが2時間49分51秒のタイムで第26回大会（平成13年度）からの5連覇を飾り、また団体の部では、学部生チームであるチーム名「全力」が優勝した。なおその他の出走者も好走し、69名がこの難コースを完走した。

また今大会では、沼津市民にも参加を呼びかけハーフコースも企画し（23km）、本学関係者と地元市民の好い交流の機会ともなった。優勝は薬学部4年生の向田 恵（むくた・けい）さんで、タイムは1時間41分55秒であった。



本大会は、戸田開寮以来97年続いている本学と戸田地区との交流を背景に地元の方々からも多くの温かい声援をいただきつつ、これまで多数の方々の参加を得、今日を迎えています。大会も30回を無事終了し、これからは地域交流事業の一環として、また学内外の方々

により親しんでいただけるスポーツイベントとなるよう企画してまいりたいと考えています。皆さんの奮ってのご参加をお待ちしています。



個人総合優勝の大井さん



ハーフマラソン優勝の向田さん

主な成績は以下のとおり。

第30回東京大学伊豆・戸田マラソン大会結果

【個人の部】＜東京大学総長杯＞

順位	氏名	時間	備考
優勝	大井 寛己	2:49:51	卒業生
準優勝	津釜 大侑	3:09:50	学部生（農3年）
第3位	二平 泰典	3:13:29	学部生（農4年）
第4位	杉浦 大輔	3:14:49	学部生（理4年）
第5位	島田壮一郎	3:17:03	学部生（法3年）
第6位	田辺 克彦	3:18:06	卒業生

【団体の部】＜沼津市長杯＞

（上位3位の平均順位が少ないチーム）

順位	チーム名	平均順位	備考
優勝	全力	9	学部生
準優勝	Doo-Up本命	15	卒業生・学部生
第3位	飛走会	17	卒業生

【女子の部】

順位	氏名	時間	備考
優勝	吉田 想子	5:56:37	職員

【学内の部】

順位	氏名	時間	備考
優勝	津釜 大侑	3:09:50	学部生（農3年）

【バカヤロー会長杯】（「第30回大会」なので第30位の方）

順位	氏名	時間	備考
第30位	岩崎 陽平	4:36:46	学部生（薬3年）

【ハーフマラソンの部】

順位	氏名	時間	備考
優勝	向田 恵	1:41:55	学部生（薬4年）
準優勝	北村 和雄	1:58:12	沼津市民
第3位	高本 康夫	2:06:56	沼津市民

（学生部）

INFORMATION

シンポジウム・講演会

シンポジウム・講演会

気候システム研究センター

一般公開講座「変化する気候」
11月29日（水）安田講堂で開催

気候システム研究センターでは11月29日（水）14時30分から17時30分に、伊藤忠商事との共催で一般公開講座「変化する気候」を開きます。日本における気候の第一線の研究者たちが、温暖化、異常気象、そして地球の未来の姿について、分かりやすく、明快に、講演と解説を行います。今、地球温暖化が問題になっています。この講座に参加して、気候への興味をより一層深めませんか。

■日時：11月29日（水）14:30～17:30

■会場：安田講堂

■プログラム：

開会 14:30～14:40

気候システム研究センター長・教授／中島映至

第1部「講演会」14:40～15:40

気候システム研究センター教授／木本昌秀

「現在と将来の気候」

気候システム研究センター助教授／阿部彩子

「地球史のなかの気候」

第2部「座談会」16:00～17:30

講話：環境ジャーナリスト／枝廣淳子

座談会：（モデレーター）枝廣淳子、中島映至

（パネリスト）木本昌秀、阿部彩子、

清水寿郎（伊藤忠商事）

■参加費：無料

■定員：500人

■申し込み：

①11月20日（月）までに下記のウェブサイトアクセスし、必要事項を入力してください。

<http://www.ccsr.u-tokyo.ac.jp/~k-koza/index.html>

②往復はがきの返信部分に住所、氏名、所属、役職、電話番号、メールアドレスを記入して下記の宛て先まで郵送してください。11月15日（水）必着。

〒277-8568

千葉県柏市柏の葉5-1-5 総合研究棟204号室

一般公開講座「変化する気候」係

※会場の都合により、定員に達した時点で申し込みを終了させていただきます。お知らせいただいた個人情報は、本件に関する連絡以外には使用しません。

■問い合わせ：

電話：04-7136-4374

（気候システム研究センター秘書室・茂谷）



第10回理学部公開講演会開催のお知らせ

●テーマ：「時間の科学」

私たちをとりまく自然に目を向けると、さまざまな現象が日常感覚を超えた時間スケールで起こっていることがわかる。多様な時間スケールでとらえた最先端の科学の世界を通して、時間の不思議を体験していただきたい。

また、第10回記念特別講演として、国立天文台名誉教授 海部宣男氏をゲストに招き、最近ホットな惑星定義の話題を交えながら太陽系の起源と歴史について解説していただく。

●講演内容：

「地球環境変動と年代測定」

横山祐典（よこやま ゆうすけ・理学系研究科 地球惑星科学専攻 講師）

「動物のからだを刻む分節時計」

武田洋幸（たけだ ひろゆき・理学系研究科 生物科学専攻 教授）

第10回記念特別講演

「ひろがる太陽系：惑星の新しい定義をめぐる」

海部宣男（かいふ のりお・国立天文台 名誉教授）

●日時：12月2日（土）14:00～16:35（13:30開場）

終了後、講師との歓談の時間を設けています。

●場所：本郷キャンパス 安田講堂

●参加費：無料。参加申し込み不要。

当日先着順。どなたでも参加できます。

●主催・問い合わせ先：

大学院理学系研究科・理学部

電話：03-5841-7585

e-mail：shomu@adm.s.u-tokyo.ac.jp

URL：http://www.s.u-tokyo.ac.jp/p10/

お知らせ

お知らせ

保健センター

本学における新型インフルエンザへの注意喚起

(1) 保健センターにおける鳥インフルエンザ／新型インフルエンザ防止対策

高病原性鳥インフルエンザAウイルスH5N1亜型による汚染地域はアジアからロシア、エジプト・トルコ、さらにドイツ・フランスへと現在も拡大しつつあり（別表-1）、2006年のヒトへの感染事例は10月11日時点で既に106例を数え、うち70例の死亡が確認されています（別表-2）。現在、同亜型のヒト-ヒト感染は一部の例外を除き認められておらず、世界保健機構のPhase-3の段階にあります。

このような状況下、保健センターでは1月に「保健センターにおける鳥インフルエンザ／新型インフルエンザ防止対策」を策定し、対策を講じてきました。本年度もインフルエンザの流行期を向かえ、再度学内での防止対策を掲載し、被害防止のための注意を喚起します。

(2) Phase-3 Aでの対応～保健センターの役割

保健センターはPhase-3 A段階（国内でのトリ-ヒト感染の実例無）では、以下の役割を果たします。

1) 広報媒体による感染情報及び対策行動計画の学内周知

常にアップデートされた感染情報や対策行動計画に基づく勧告を発信いたします。

- ・汚染地域における感染状況に関する情報
- ・感染地域への不要不急の立入りの自粛勧告
- ・感染地域におけるトリへの接触の自粛勧告

2) 汚染家禽接触後インフルエンザ様症状を呈した者への対応

汚染地域において家禽へ接触した者が、7日を経過しない潜伏期間の後にインフルエンザ様症状を呈した場合、以下の手順により対応します。

- ・登校・出勤前のセンターへの電話連絡による健康・医療相談の徹底
- ・センターから附属病院感染制御部・感染症内科への連絡
- ・担当医療施設への転送

(3) Phase-4における保健センターの対応

鳥インフルエンザH5N1亜型が、ひとたび、ヒトへの親和性と効率的伝播能（ヒト-ヒト感染能）を獲得すれ

ば新型インフルエンザ（Phase-4）として忽ち汎流行（Phase-6）へと進展することが危惧されます。

Phase-4 段階に至った場合、保健センターは下記のように対応します。

1) 広報媒体による感染情報及び対策行動計画の学内周知の継続

2) 流行地域における患者接触者への対応

流行地域において患者に接触した者に対し、インフルエンザ様症状の有無にかかわらず、以下の対応を行います。

- ・登校・出勤以前のセンターへの電話連絡の徹底
- ・電話による健康・医療相談

保健センターはこのように時々刻々変化する状況・要請に実時間的に対応すべく、防止対策およびサーベイランスに基づく情報を継続的かつ迅速にアップデートしてまいります。保健センターホームページをご活用ください。

別表-1) 8月23日時点でのH5N1亜型の家禽汚染確認地域

	家禽汚染地域を確認した国名
アジア	中国、カンボジア、ベトナム、タイ、インドネシア、マレーシア、インド、パキスタン、イラク、トルコ、アゼルバイジャン
ヨーロッパ	フランス、ドイツ、ルーマニア
アフリカ	エジプト、スーダン、ジブチ

別表-2) 10月11日時点H5N1亜型のヒトへ感染事例（感染確定数/うち死亡数）

国名	アゼルバイジャン（8/5）、カンボジア（2/2）、中国（12/8）、ジブチ（1/0）、エジプト（15/6） インドネシア（50/40）、イラク（3/2）、タイ（3/3）、トルコ（12/4）

お知らせ

保健センター

本郷支所診療時間変更のお知らせ

保健センター本郷支所では12月より1階部分の改修工事を予定しています。これに伴う工事機材の搬入、工事着手の準備作業を行うため下表のとおり診療時間を変更し、休診といたします。

■本郷支所（03-5841-2574～5）

日付	診療
12月7日(木)	午前のみ（午後は休診）
12月8日(金)	終日休診

※1

12月7日（木）午後から応急処置を除き全科休診となります。

※2

改修工事に伴い本郷支所での業務に変更が生じた場合、随時保健センターホームページならびに本郷支所入口等に掲示しますのでご確認ください。

お知らせ

保健センター

年末年始の診療日程のお知らせ

年末年始は下記のとおり業務を行います。

	本郷支所	駒場支所	柏支所
12月25日(月)	通常通り	午後休診	通常通り
12月26日(火)			
12月27日(水)			
12月28日(木)	午後休診		午後休診
12月29日(金) ～1月3日(水)	休 診		
1月4日(木)	午前休診	午後休診	午後休診
1月5日(金)	通常通り		通常通り
1月6日(土) ～1月8日(月)	休 診		
1月9日(火)	通常通り		

お知らせ

情報基盤センター

ポストペイ方式プリンティングサービスについて

情報基盤センター情報メディア教育部門では、新たにポストペイ方式プリンティングサービスを9月1日より開始しました。

従来のプリペイドカード方式では、事前に購入した専用プリペイドカードを用いて印刷しました。新サービスでは、ポストペイ用として使用可能なICカードをICカードリーダー(図1)にタッチさせるだけで認証されるため、ユーザ名、パスワード入力が必要となります。印刷はプリペイドカードが不要で、ICカードにて自動的に印刷枚数分の精算、印刷ができます。少量の印刷でプリペイドカードを余らすことや大量の印刷でプリペイドカード残額不足に慌てることはありません。

新サービスを利用するには、ICカード学生証(キャンパスカード[学生用クレジットカード]契約者のみのICカード学生証)、ICカード教職員証(統合型教職員証のみ)が必要となり、他のICカードは利用できません。

利用を希望される場合は、学生はキャンパスカードの申込書の本郷・駒場地区の生協本部から入手し、直接カード会社に送付することになります。教職員は各部局担当者にお申し込みください。

現在、ポストペイ方式プリンタ(図2)は、プリンタ本体(モノクロプリンタ)、操作用PC、ICカードリーダーの一式で、本郷地区(総合図書館、情報基盤センター)、駒場地区(駒場図書館、情報教育棟自習室)に設置されています。

印刷(紙切れや出力エラー等)の障害が発生した場合は、東大生協が担当しているため、

<駒場地区>

生協本部：03-3469-7141(内線46183)

<本郷地区>

生協浅野：03-5841-7994(内線27994)

総合図書館コピーセンター：03-5804-6307(内線82635)

に問い合わせください。センター等の窓口では対応しておりません。

今後は、ポストペイ方式プリンタの利用状況に応じて、機器の増設等を考えております。



(図1) ICカードリーダー



(図2) ポストペイ方式プリンタ

平成18年度の学内広報発行スケジュール

号数	原稿締切日	発行日	配布日
1347	11月15日(水)	11月22日(水)	11月29日(水)
1348	学生生活実態調査特集号(予定)		
1349	12月6日(水)	12月13日(水)	12月19日(火)
1350	1月10日(水)	1月17日(水)	1月23日(火)
1351	1月24日(水)	1月31日(水)	2月6日(火)
1352	2月7日(水)	2月14日(水)	2月21日(水)
1353	2月21日(水)	2月28日(水)	3月6日(火)
1354	3月7日(水)	3月14日(水)	3月20日(火)

お知らせ

大学院総合文化研究科・教養学部

「教養学部報」第497（11月1日）号の発行 ——教員による、学生のための学内新聞——

「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、学際交流棟ロビー、生協書籍部、保健センター駒場支所で無料配布しています。バックナンバーもあります。

第497（11月1日）号の内容は以下のとおりとなっていますので、ぜひご覧ください。

信原幸弘：脳科学と倫理

中澤英雄：アインシュタインの予言

大築立志：〈身体運動教育のカリキュラム改革〉

つもりと実際、主観と客観の関係を測る

渡會公治：〈身体運動教育のカリキュラム改革〉

基本動作「立つこと、体幹の筋力を測る」

小島憲道：記者懇談会

楠岡成雄：伊藤先生の第1回ガウス賞受賞について

〈本の棚〉

遠藤泰生：長谷川まゆ帆著

『お産椅子への旅～ものと身体の歴史人類学』

産むことと男であること

箭内 匡：甚野尚志編

『東大駒場連続講義～歴史をどう書くか』

歴史学と非歴史学のあいだ

〈時に沿って〉

増井洋一：基礎科学科というところ

ニュースページ、インフォメーションページ への記事提出要領

「学内広報」は皆さんに送っていただく記事でられています。下記の提出要領により、積極的に学内の情報をお寄せください。

1. 提出方法

記事は、各部局の広報担当者とおして、メールの添付ファイルとしてデータで送付すること。

2. 提出先

総務部広報課

E-mail : kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

3. 締切日

原則として各月第1・3水曜日を原稿の締切日とする（配布は翌々週の火曜日）。ただし祝日等により変更となる場合があるため、HPで発行スケジュールを確認すること。

4. 提出の際の留意事項

(1) 文字数

文字数は記事1件につき800字を目安とし、内容により増減は可とする。

(2) 写真

① 写真を掲載する場合はキャプション（説明文）を25文字以内で添えること。

② 写真を電子データで提出する場合、Wordファイルなどに貼り付けず、JPEGなどの形式による元の画像ファイルを送付すること。

③ 写真は電子データがない場合プリントのものも掲載可とする。

(3) 書式

① 原稿は1行25文字の書式で作成すること（ただし、大きな図表などが含まれる場合はこの限りではない）。

② 原稿のはじめに担当部局名と記事タイトルを記載すること。

③ 記事タイトルは極力簡潔でわかりやすいものとする。

(4) 文章表現のきまり

① 既に行われた行事や決定した事項などの報告記事は、「である調」を用いること。

② これから行われる行事や募集などのお知らせは、「ですます調」を用いること。

③ 句読点は「、」「。」を用いること（「，」「.」は用いない）。

④ 時間は24時間表記とし、日付には括弧書きで曜日をつけること。

⑤ このほか、特に表記する必要のない「平成●年」は削除する、特に支障がない限り「東京大学」は「本学」とするなど、表記の統一のための修正を編集段階において行う。

5. 問い合わせ先

総務部広報課広報企画チーム

TEL : 03-3811-3393 内線22031

E-mail : kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

EVENT LIST

行事名	日時	場所	連絡先・HP等
社会科学研究所国際ワークショップ 「世界における社会科学的日本研究の現状と展望」	11月17日(金) 18日(土)	社会科学研究所大会議室/ 理学部1号館小柴ホール	社会科学研究所 Tel 03-5841-4904 / Fax 03-5841-4905 E-mail fujiyama@iss.u-tokyo.ac.jp http://jww.iss.u-tokyo.ac.jp/
大学院数理学研究科公開講座「対称性と群」	11月18日(土) 13:30~	数理学研究科 大講義室	http://faculty.ms.u-tokyo.ac.jp/users/kokaikoz/kokaikoz2006.html E-mail: t-saito@ms.u-tokyo.ac.jp
第31回 東京大学農学部公開セミナー「農学の未来」 ※1345号参照	11月18日(土) 13:30~	農学部弥生講堂一条ホール	農学系総務課 広報情報処理係 〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1 電話: 03-5841-5484、8179 mail: koho@ofc.a.u-tokyo.ac.jp
第6回東洋文化研究所公開講座 「アジアを知れば世界が見えるーアジアの暦」	11月18日(土) 19日(日) 13:00~	経済学研究科棟 地下一階第一教室	東洋文化研究所研究協力係 TEL:03-5841-5836 E-Mail: koza@ioc.u-tokyo.ac.jp
連続シンポジウム「知の拠点サミット」 ー情報革命と人類の未来ー	11月18日(土) 14:30~	安田講堂	主催: 東京大学 朝日新聞社 詳細・申し込み http://www.asahi.com/event/TKY200610300235.html http://www.asahi.com/sympo/
International Symposium on Structural Reliability in Energy Systems Innovation ~信を極める~ ※1345号参照	11月22日(水) 9:00~	農学部弥生講堂一条ホール	東京大学21世紀COEプログラム 機械システム・イノベーション事務局 TEL:03-5841-7437 http://mechsys.jp/
加藤尚武教授特別講義「生命の全体像」のお知らせ	11月22日(水) 17:00~	法文1号館215番教室	大学院人文社会系研究科 21世紀COE研究拠点形成プログラム 生命の文化・価値をめぐる「死生学」の構築 TEL & FAX: 03-5841-3736
地震研究所一般公開・公開講義 ※1345号参照	11月24日(金) 一般公開 10:00~ 公開講義 15:00~	一般公開 地震研究所1号館 公開講義 安田講堂	地震研究所 アウトリーチ推進室 通常はがき 〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1 E-mail openlec@eri.u-tokyo.ac.jp (荷名は「申し込みの場合は「申し込み」、問い合わせの場合は「問い合わせ」としてください) TEL (問い合わせのみ) 03-5841-5643
歴史を学ぶということ ー「人間の安全保障」と地域秩序	11月24日(金) 13:00~	駒場キャンパス 学際交流棟3階 学際交流ホール	大学院総合文化研究科「人間の安全保障」プログラム事務局 TEL & FAX: 03-5454-4930 E-mail: hsp-events@hsp.c.u-tokyo.ac.jp http://human-security.c.u-tokyo.ac.jp/symposium/sympo20061124.htm
The 3rd International Symposium on Innovative Aerial/Space Flyer Systems ~翔を極める~ ※1345号参照	11月24日(金) 25日(土) 9:00~	武田先端ビル5F武田ホール	東京大学21世紀COEプログラム 機械システム・イノベーション事務局 TEL:03-5841-7437 http://mechsys.jp/
東京大学生命科学研究ネットワーク・シンポジウム ー東京大学生命科学の未来を拓くー ※1345号参照	11月25日(土) 9:30~17:45	講演 安田講堂 ポスターセッション 安田講堂・工学部2号館	研究協力部サステナビリティ学支援グループ Tel: 03-5841-1386 Fax: 03-5689-7344 E-mail: seimeikagaku@seimeikagaku.org http://www.seimeikagaku.org/index.html
第14回東京大学大学院総合文化研究科・ 地域文化研究専攻シンポジウム 「人種と人種主義を問うー地域文化研究の視点から~」	11月25日(土) 13:00~	駒場キャンパス18号館ホール	大学院総合文化研究科・地域文化研究専攻 E-mail: area@ask.c.u-tokyo.ac.jp http://ask.c.u-tokyo.ac.jp/
教育学研究科附属心理教育相談室主催 第2回公開講座 「子どものSOSにこたえるために ー家族と学校が手を結ぶ」	11月26日(日) 14:00~	赤門総合研究棟 200A番教室	大学院教育学研究科附属心理教育相談室 03-3818-0439 http://www.p.u-tokyo.ac.jp/061126.pdf
第6回LAC国際シンポジウム 「新しい小説(ヌーヴォーロマン)から小説の未来へ」	11月27日(月) 18:00~	駒場キャンパス 学際交流ホール	東京大学LAC事務局 TEL:03-5454-4865 http://www.lac.c.u-tokyo.ac.jp/laccolloque.html
The 3rd International Symposium on Biomedical Systems Innovation ~體を極める~ ※1345号参照	11月27日(月) 28日(火) 9:00~	武田先端ビル5F武田ホール	東京大学21世紀COEプログラム 機械システム・イノベーション事務局 TEL:03-5841-7437 http://mechsys.jp/
気候システム研究センター・伊藤忠共催 公開講座 「変化する気候」 ※17ページ参照	11月29日(水) 14:30~	安田講堂(本郷キャンパス)	気候システム研究センター E-mail: webadmin@ccsr.u-tokyo.ac.jp http://www.ccsr.u-tokyo.ac.jp/~k-koza/index.html
第109回オルガン演奏会 ※1345号参照	11月30日(木) 18:30~	教養学部900番教室(講堂)	大学院総合文化研究科・教養学部オルガン委員会 http://organ.c.u-tokyo.ac.jp/ TEL: 03-5454-6139 (美術博物館) E-mail: cmaeda@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp
第10回理学部公開講演会 時間の科学 ※18ページ参照	12月2日(土) 14:00~ (13:30開場)	安田講堂(本郷キャンパス)	大学院理学系研究科庶務係 TEL: 03-5841-7585 E-mail: lshomu@adm.s.u-tokyo.ac.jp http://www.s.u-tokyo.ac.jp/event/public-lecture10/
行事名	開催期間	場所	連絡先・HP等
2006年度冬学期「高校生のための金曜特別講座」	10月6日(金) ~1月12日(金)	教養学部 11号館2階1106教室	http://high-school.c.u-tokyo.ac.jp/
第34回生研公開講座イブニングセミナー 「環境のための物質・材料工学最前線」	10月6日(金) ~12月22日(金) (11月3日、24日を 除く各金曜日 全10回18時から)	生産技術研究所 (駒場リサーチキャンパス)	生産技術研究所 総務・広報チーム TEL:03(5452)6863、6866 FAX:03(5452)6071 http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/announce/
特別展「一高校長 森巻吉とその時代一向陵の興廃 この一遷にあり」	10月7日(土) ~12月3日(日) 10:00~18:00 (入館は17:30まで) 毎週火曜日休館	総合文化研究科・教養学部 駒場博物館 1階美術博物館展 示室	TEL:03-5454-6139 FAX:03-5454-4929 http://tdgl.c.u-tokyo.ac.jp/bihaku/
特別展示(一般公開) 「知の職人たち ー南葵文庫に見る江戸のモノづくりー」	11月1日(水) ~11月30日(木)	総合図書館3階ロビー	附属図書館 情報サービス課 専門員 Tel: 03-5841-2640 E-mail: srv-sen@lib.u-tokyo.ac.jp
特別展示「東京大学コレクション ー写真家上田義彦のマネリスム博物誌」展	11月3日(金・祝) ~平成19年1月28日(日) (休館日もありますので ご確認下さい)	総合研究博物館	ハローダイヤル 03-5777-8600 http://www.um.u-tokyo.ac.jp
情報基盤センター 「留学生向け情報探索ガイダンス」	11月15日(水)15:00~ 11月17日(金)15:00~ 11月21日(火)15:00~	本郷キャンパス 総合図書館1階講習会コーナー	情報基盤センター学術情報リテラシー係(22649) literacy@lib.u-tokyo.ac.jp http://www.dlitc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html

Contents

特集

- 02 駒場コミュニケーション・プラザ完成！

ニュース

一般ニュース

- 04 学生部
学寮・国際学生宿舎で消防訓練を実施
- 05 学生部
谷川寮閉寮式典挙行される
- 06 研究協力部
「東京大学稷門賞」授賞式を挙行
- ### 部局ニュース
- 07 分子細胞生物学研究所
博士課程在籍者懇談会・修士課程在籍者懇談会を開催
- 08 大学院総合文化研究科・教養学部
三鷹国際学生宿舎で秋季入居留学生歓迎会行われる
- 09 医科学研究所
慰霊祭行われる
- 09 大学院工学系研究科・工学部
「第二回工学体験ラボ」を開催！
～工学部広報センター「T-Lounge」新設
- 10 大学院教育学研究科・教育学部
附属中等教育学校で教育実習B班まとめの会が開かれる
- 10 大学院教育学研究科・教育学部
附属中等教育学校で第2回三者協議会開催される

コラム

- 11 さすてなTimes Vol.5
- 11 調達本部です 第18回
- 12 Crossroad～産学連携本部だより～Vol.6
- 13 Flags運動部紹介 No.24

- 14 コミュニケーションセンターだより No.25
- 15 龍岡門横丁囃 第7回
- 15 Relay Column「ワタシのオシゴト」 第3回
- 16 噴水 第30回東京大学伊豆・戸田マラソン大会が開催される

INFORMATION

シンポジウム・講演会

- 17 気候システム研究センター
一般公開講座「変化する気候」11月29日（水）安田講堂で開催
- 18 大学院理学系研究科・理学部
第10回理学部公開講演会開催のお知らせ

お知らせ

- 18 保健センター
本学における新型インフルエンザへの注意喚起
- 19 保健センター
本郷支所診療時間変更のお知らせ
- 19 保健センター
年末年始の診療日程のお知らせ
- 20 情報基盤センター
ポストペイ方式プリンティングサービスについて
- 21 大学院総合文化研究科・教養学部
「教養学部報」第497（11月1日）号の発行—教員による、学生のための学内新聞—

22 EVENT LIST

淡青評論

- 24 学校か教科書か：援助のあり方について考える

◆表紙写真◆

駒場コミュニケーション・プラザ
(2ページに関連記事)

編集後記

先日、今号の特集記事になっている駒場コミュニケーション・プラザを初めて訪れました。ちょうど講義終了後の時間だったためか、中庭の芝生や併設のカフェは友人らと語らう学生たちで賑わっていて、駒場キャンパスらしい若々しい雰囲気にもまれていました。去年までのキャンパスライフを思い出し、職員としてキャンパスに通勤（通学？）する現実に少し切なくなりましたが、日々学問に励む彼らのためにも頑張ろうと思います。（あ）



七徳堂鬼瓦

学校か教科書か：援助のあり方について考える

新しく完成した小学校の校舎の前で、現地の校長先生とそれに資金提供した側の日本人がにこやかに握手をしている。発展途上国の援助の場面でよく見かける光景である。日本人は学校を建てるのが好きである。しかし、建物であれば、学校建設のための予算がなければ親が子どものために力を合わせて建てることもできる。そこで勉強をすれば、たとえ粗末な建物であったとしても、子どもはそこで何かを感じるだろう。外国の援助で建てられた立派な（時には場違いな）建物よりもずっと教育的であるかもしれない。建物よりももっと緊急の課題は教科書である。教科書がないところでは、教師の仕事は教科書を読むことであり、子どものやるべきことはそれを書き写すことである。しかし、それ以上の教育が行われるためには教科書が必要である。こういうことを常々、考えていたが、たまたまラオスの農業学校でボランティア（海外青年協力隊）として働く若い日本人女性（Kさん）に会い、意見が一致し、副読本を作ることになった。Kさんは先生たちに呼びかけ、1年をかけて、苦勞して約100ページの果樹の栽培の本を作り上げた。当初、30万円はかかると予想していたが、実際には3万円でできた。その理由は、先生たちもボランティアで協力してくれたからであった。先生たちにとって「Kさんと一緒に本を作った」ということが大事なのである。原稿料を支払うということは、むしろこの思いを台無しにする行為でしかない。とは言っても、先生たちの少ない給料を本の販売によって補うような仕組みを作っていくことも考えている。

開発とは人間的なプロセスである。経済学的アプローチは、人間を経済成長（Economic Development）のための手段にしがちである。人間を人間的成長（Human Development）の主体にするためには、もっと広い枠組で発展を捉える必要がある。マーサ・ヌスバウムが『女性と人間開発』で示したケイパビリティのリストをどのように応用できるか考えている。

池本 幸生（東洋文化研究所）

（淡青評論は、学内の教職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1346 2006年11月8日
東京大学広報委員会

〒113-8654
 東京都文京区本郷7丁目3番1号
 東京大学総務部広報課
 TEL：03-3811-3393
 e-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
<http://www.u-tokyo.ac.jp>